

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	茨城大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	イバラキダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	関東地方(東京都を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	農学部
	担当教職員名・役職	福与徳文教授
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	70	
受入企業等数	35	
受入企業等名	ネスレ日本(株)、コモリ食品、(株)つくば分析センター、(株)山中酒造店、一般社団法人日本海事検定協会、公益財団法人茨城県埋蔵文化財センター、(株)月の井酒造店、(株)ひのでや、(有)瑞穂農場、栗山工業(株)、カバヤ食品(株)、(株)ウェルシード、(株)筑波銀行、茨城県農業共同組合中央会、(株)シービーエス、土浦農業共同組合、(株)中セキ関東、アクアス(株)、JFEライフ(株)、木内酒造(合)、(株)明和技術コンサルティング、ピーナッツカンパニー、農業生産法人(株)なめがたしろはとファーム、(株)やぎぬま農園、(株)かすみがうら未来づくりカンパニー、内外エンジニアリング(株)、公益財団法人知床財団、茨城県庁、宮崎県庁、山形県庁、埼玉県庁、千葉県庁、大子町役場、農林水産省、国立研究開発法人農業・産業技術総合研究機構	
インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ 11.その他	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	農林水産省、国立研究開発法人等の公的機関でのインターンシップ	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受入れ先での社員、職員の業務補助、イベントの企画立案、食品企業での新商品開発等を行う。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	1単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	夏期休業期間(8月～9月)に5日間以上の実習を学部共通科目として実施している。本科目では、通常の大学の授業では学ぶことが困難な経験や知識を習得するとともに、大学における新たな学修の動機付け、将来の進路選択の指針、社会人となるための素養などを身に付ける。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 4.その他
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	報告会は学内で実施し、インターンシップの成果や振り返りを確認している。受入企業等には学生の実習報告書のコピーを後日礼状とともに送付している。
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	実施期間中に数社、就職指導講師が訪問し、実習を見学、企業担当者と面談している。

	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	就職指導講師が学生に対して、社会人マナー、守秘義務遵守等の指導を1回ガイダンスで行っている。インターンシップ担当教員がインターン実施目的や期待する教育効果の指導を1回ガイダンスで行っている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	学生が日報やレポートを作成提出し、報告会でプレゼンテーションを行っている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	実施期間中に数社、就職指導講師が訪問し、実習を見学、企業担当者と面談している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習前と後での社会人基礎力の自己評価シートの記入と提出、これに企業評価を加え、フィードバックシートとしてまとめ、報告会后に個別配布している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 4.その他
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	夏期休暇期間中での連続しない5日間でも可としている。
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	連続した5日間以上の実施期間を確保する事を基本とした上で、受入企業等と調整し実施している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	5日間の実習日誌の確認及び、実習終了後に学生評価シートと実習証明書を記入の上、大学に提出していただいている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み
問い合わせ先	大学等名	茨城大学
	担当部署名	キャリアセンター(学務部キャリア支援課)
	担当者役職名	主任
	担当者氏名	石川雅也
	電話番号	029-228-8828
	メールアドレス	career@ml.ibaraki.ac.jp